

一凜 月刊

書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



No.17

2019年4月

夢は美一歩一歩
希望は高まれば
夢も希望も捨てなければ
必ず近づいてくる

目的は高まれば、そのための
一歩一歩で目標を定めよう
うそそのために時を

刻むぞよ。



月刊一凜 No.17 <2019年4月>

《競書審査員》佐々木峯雲 《発行》書道教室 一凜 薬院 《制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

墨を擦る

岡田 雄希

文= 岡田 雄希

自慢話です

鈴60を重ねて自慢できることはないに等しい。ただ、これは誇れます！

と言い切れることがある。フルマラソンの完走だ。2014年11月に開催された第1回福岡マラソン42・195キロを規定時間ぎりぎりだったが完走した。

つい最近、会社で契約社員さんの面接をした。ライター系の人材が欲しくて募集をしたのだが、ベテランで取材経験が豊富な女性を採用することになつた。面接が終わり、場が和んで雑談をしていた時だ。女性がマラソンを走るのが趣味という話をした。

私も調子に乗って「フルマラソンを完走したことがあるんですよ」と言った時だ。その女性が私の顔をマジマジと眺めた。女性は「あっ」と言つた。「西日本スポーツで、マラソンチャレンジ企画を書いてましたよね」と言つてくれた。当時、私は50代半ばだったがメタボ体型（今でもそうなのだが）と成人病解消、地場スポーツ紙の代表者として第1回目の福岡マラソンを盛り上げたいとの思いからエントリーした。エン

トリー直後から3カ月間にわたりトレーニングレポートを西日本スポーツに

岡田 雄希 Yuki Okada

昭和33年3月20日、北九州市生まれ。平成23年12月に一凜に入門。
趣味は自転車と酒を飲むこと。酒は誘われたら断らないがモットー。

自慢話です

随时連載していた。

というわけで私が、トレーニングを通じて得たフルマラソン完走の極意を少しずつ思い出してきた。「一凜」の仲間の皆さんに伝授しようと思う。

(その1)足にぴったりと合うシューズを選ぶべし。スポーツショップなどへ行くと足のサイズや形を計測してもらえる。こうして得た情報を元にランニングシューズを買うことだ。私は未だに、そのシューズを履いているがフルマラソンを走つたときにマメはできなかつた。

(その2)ソックスは少々高くても専用のものを購入すべし。ソックスもシューズと同じだ。高級かつ足に合つたものさえ履けば足にマメができる。フルマラソンもウルトラマラソンも完走したこのあるコーチが、シューズよりもソックスの方のフィット感が大事とのことだった。私もスポーツ用品店で思いつつ買って買ったが、これも完走を助けてくれた。

(その3)ランニングマシンを活用すべし。とまあ、この辺で掲載文字数の上限を越えそうな気がしてきた。ランニングマシンについては次号のお楽しみと

鹿児島本線の起点で、1914年創建の門司港駅が3月10日に新装オープ

ンしました。

約6年の改修工事を経て、大正ロマ

ン漂う優雅な姿が蘇ったとのこと。

豆紙人形作家マサコ・ムトーさん（13年

前93歳で没）作の愛らしい人形たちが

展示されているそうです。

「夢はかなうもの

叶うものと思い続けるもの

やろうと思えすれば

叶いつつからだつて

何だつてできる！

どんな時でも

諦めてはいけない

どんな時でも

何ができるはある！」

平成31年3月8日西日本新聞春秋より一部抜粋編集

「人生、遅すぎることはない」と話していたムトーさんは、70歳から絵を習い、88歳で豆人形作家としてデビューしました。国内外で開いた個展は高く評価されましたが、その道のりは決して平らではなかつたようです。69歳の時、病気で右目を失明、左目もぼんやりとしか見えず、戦時中、空襲から逃げる途中の怪我で右足も不自由、肺や心臓にも持病があり、入退院の繰り返し。それでも、パステル画を描き、豆人形を折り続けたそうです。

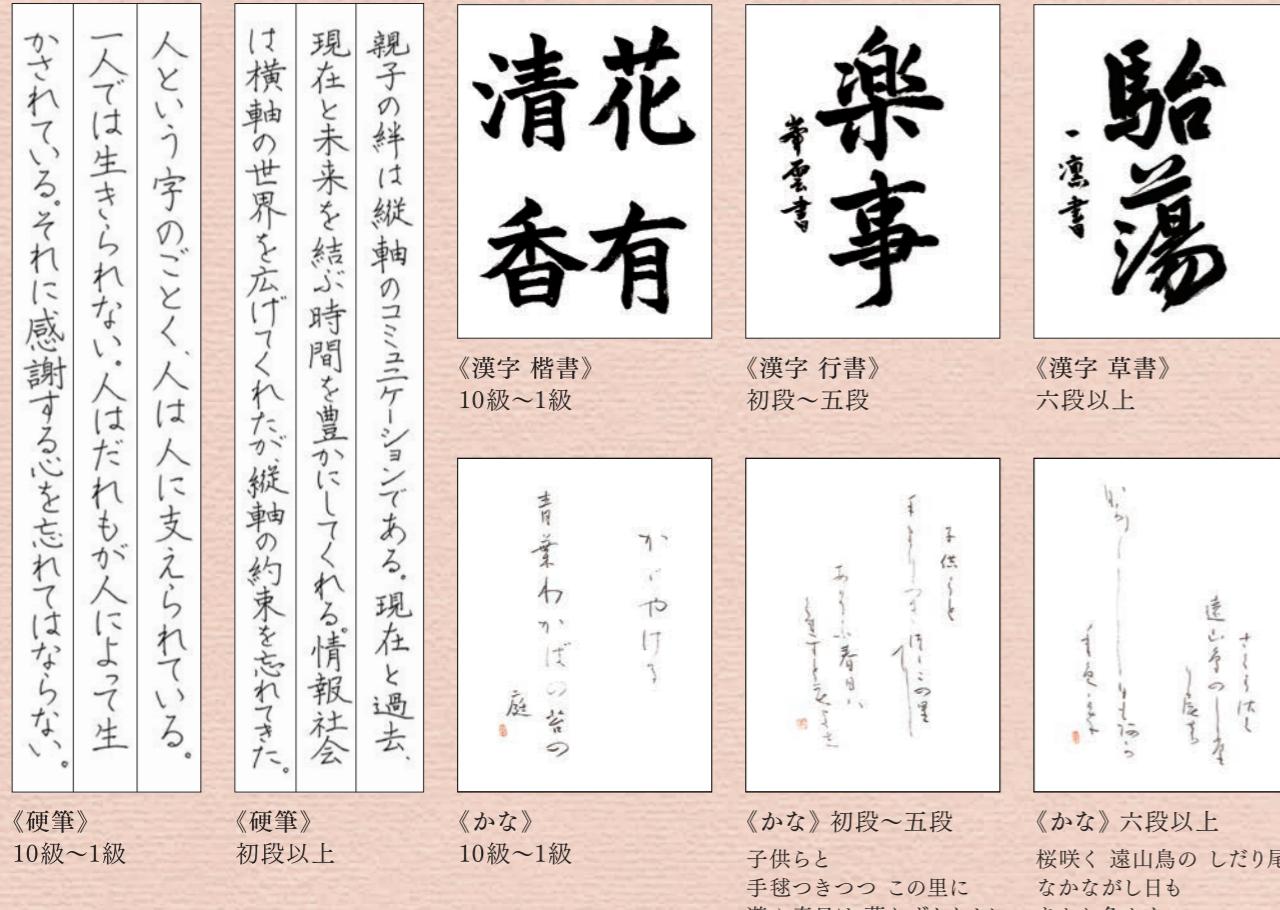
佐々木 峯雲



4月分課題は5月10日(金)が提出期限予定です。

諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。
みなさん、今月も頑張りましょう。

4月分 課題



配布された手本に間違えがないか、左記課題一覧を必ず確認してください。

《硬筆の添削に関して》 初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

今月の言葉

腹立たしいのは、思いやりや気配りの無さに対し
てです。孔子が言っています。人生で一番大切なこと
は「恕(じょ) = 思いやり」。己の欲せざる所、人に施すこと
勿れと。

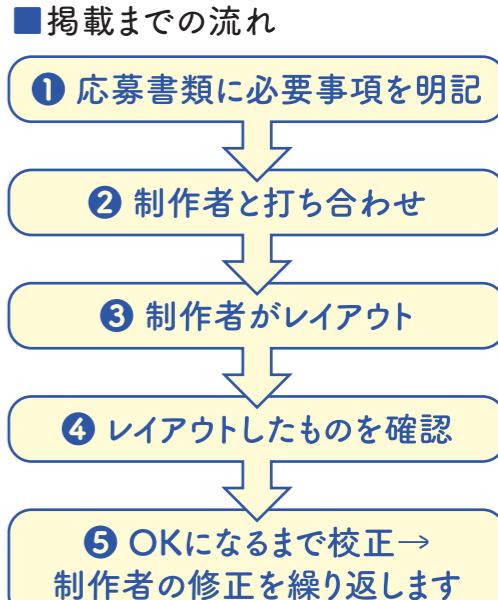
一凛に来たときは、ちょっとした思いやりや気配り
に心掛けて周りの方に接して頂ければと思います。
たとえば、遅く教室に来た方は、極力音を立てず
にセッティングするとか。たとえば筆を洗う際は、待つ
で鼻水が止まらない時は、すすぐないよう鼻をかむ
とか。そういう小さな思いやりや気配りがお互い心
地よく書に集中することに繋がると思いません。
そう言う私も、まずは加齢臭などで皆さんに不快
な思いをさせないよう、思いやりと気配りに努めた
いと思います。

あなたの **趣味** **特技** **仕事** **お知らせ**

などなど

このページで紹介してみませんか?

あなたの趣味やお仕事などを
このページで紹介してみませんか。
どのような内容でも構いません。
この機会にぜひ、教室のみなさんとの交流を
より深めてみてはいかがですか。



名は**体**を**表**す

第5回「真」

シン
ま・まこと



▼漢字の分類

会意・象形(ものの形そのまま象る)や指事(事物の関係を示す)の字を組み合わせて、新しい意味を表す。

▼解説

もとの字は眞に作り、ビと県とを組み合わせた形。

ヒは人を逆さまにした形で、死者の形。県は首を逆さまに懸けている形で、眞は顛死者、不慮の災難にあつた行き倒れの人をいう。

このように思いがけない災難にあって命を落とした人の怨靈は、強い力を持つ靈として恐れられた。それで顛死者を丁重に埋め、祠の中に眞き、靈の力をもつ玉をそえて填め、座を設けて鎮座させ、慎んでその眞を鎮めた。このように眞をその要素とする字の多くは、みな顛死者の怨靈を慰める儀礼に関する字である。眞は死者で、それはもはや変化するものではないから、永遠のもの、眞の存在となり、「まこと」の意味となる。このことは、人の生は一時(わずかの時間)、仮の世であるが、死後の世界は永遠であるという古代の人々の考え方による。

あなたの名前の漢字の成り立ち

▼梁井 真美子さん、佐野 真由子さん、
徳山 真弓さん、安齋 真紀さん
《金文》
《篆書》

人の名前は、その中身や性質を的確に表すことが多いといわれます。このコーナーでは、一凛に通っておられる生徒さんの名前の中から多く使用されている漢字を選び、その成り立ちを紹介していきます。